

～9世紀の貿易交流（日本、中国、韓国）

宗像氏が沖ノ島を信仰の地として確立した4世紀後半の頃は、日本とアジア大陸の貿易が盛んになった時期と重なります。仏教や中国の文字体系、絹や馬は、この初期の貿易の結果として日本列島にもたらされた重要な文化的影響と物資の一つでした。中国からの多くの製品が、朝鮮の仲介者を通じて日本に持ち込まれました。中国や朝鮮半島との500年間の貿易は、沖ノ島で発見された多くの品々に色濃く残っています。

シルクロード

日本の大部分を支配していた大和朝廷(300-710年)は、宗像氏に沖ノ島での祭祀を代行させました。この関係は、8世紀初頭に編纂された日本最古の2つの歴史書・古事記と日本書紀に詳述されています。沖ノ島で発見された品々は、外海での加護を求める旅人の間における島の重要性を示しています。発見された約8万点の品々の中には、中国や朝鮮からのものもあり、遠くはペルシャからのものもあります。これらはシルクロード経由で日本にもたらされたと考えられています。

アジアとの貿易

7世紀から8世紀にかけて、朝鮮の王国と唐王朝との戦争が日本と大陸との貿易をしばしば断絶しました。8世紀以降も遣唐使は派遣されましたが、9世紀までに中国五代の不安定さが原因で、正式な貿易は途絶え、500年に及ぶ沖ノ島への奉獻は行われなくなりました。